

F11

挑む

運送業のハーツが提供するサービスは、運転手付きトラックを時間単位でレンタルする「レントラ便」。運転手自ら、簡単な引っ越しや荷物運搬などの作業を手伝うサービスが売り物で、割安な価格を武器に顧客も着実に増えている。山口裕詮社長は2020年に開催される東京五輪に向けた期間を一大商機ととらえており、「外国人観光客関連の需要を積極的に開拓していきたい」と意欲を示す。

—最近の業績はどういった形で推移しているのか

「受注件数は前年同期に比べて2割増の水増しで伸びている。ただ、売り上げペースでみた場合、伸び率は2割を下回っている。荷物の積み降ろしは顧客自らが行うことで価格を低めに設定した、『レントラセルフ』の割合が拡大しているからだ。当社は個人向けのサービスが中心だが、このサービスについては、学校からの引き合いが強くなっている」

—今後の市場見通しは



「景気回復をあまり実感できず、不透明感がぬぐい切れていないのが現状だ。消費税率が引き上げられる来年4月が山場だと認識している」

—東京五輪の開催が決定したが

「春になると毎年決まって、香港の高校から修学旅行関連の依頼がある。スーツケースの運搬だ。2トントラックに約100個を詰め込んで、成田空港から東京を経由して目的地に運ぶ。今年には名古屋、京都、福山（広島県）に向かった。価格は安いし

やまぐち・ひろあき 函館西高卒。大手運送会社を経て1993年に創業。95年にハーツを設立し、現職。44歳。北海道出身。

確実に届くため、評判は上々だ。五輪に向けて、団体の外国人観光客の増加が見込める。こうしたスーツケース関連の需要に対する期待は大きい。また、本番になれば選手が使う用具の運搬の仕事も増えるはず」

—外部との連携も積極的に進めている

「トランクルーム大手のキュラーズ（東京都品川区）と提携した。趣味の多様化などで需要が拡大しているものの、自家用車を保有していない顧客が多いため、キュラーズがレントラ便

運転手付きトラック賃貸 東京五輪商機

ハーツ 山口 裕詮社長

を紹介し、手続きや運搬をスムーズに行えるようにした。レントラ便の利用料金は、30分で3150円から。まずは関東地区を対象にサービスを開始し、エリアを拡大する。このほか、外国人の団体需要を効率的に取り込むため、大手旅行会社との提携も検討している」

—山口社長は東日本大震災の発生後、ボランティアで何度も現地に足を運び、救済物資の運搬なども行っている

「これまで37回にわたって現地を訪れた。復興は進んでいないので、今後も随時、被災地に向かう。来年3月には被災地支援の一環として宮城県気仙沼市

の小学生にクラシックコンサートをプレゼントする。現地の音楽家らが参加してくれる見通しだ」

—気仙沼では地元企業と提携し、レントラ便事業を展開している

「まだまだ認知度は低いが、一度利用した顧客は、必ずリピーターになっていただいている。確かな手応えを感じている。東京五輪では仙台で、サッカーの予選が開催される予定だ。これに向けて新たな人の流れができるので、車種を拡充することによって攻勢をかける」

（伊藤俊祐）

■会社概要

- ▷本社＝東京都品川区南大井5-12-3
- ▷設立＝1995年10月
- ▷資本金＝1300万円
- ▷営業拠点数＝16カ所
- ▷事業内容＝運転手付きレンタルトラック「レントラ便」